

支え手のかめっ子 元号

発行: 神奈川県神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ

〒221-0044 横浜市神奈川区東神奈川1-29 東部療育ビル3階
TEL/FAX 045-441-3901 URL <https://kana-chie.com>

第65号

2022年7月発行

支え手の声から

青空に入道雲が広がって
夏本番!

向日葵の黄色、朝顔の赤や青が
夏らしさを
盛り上げてくれます。

セミ取りを楽しむ子ども達の
姿も見かけるようになりました。

感染症の拡がりやニュースで
伝えられる日々の中ですが、
夏休みに、

大きくなった子ども達が
かめっ子に遊びに来てくれて
成長を喜ぶ支え手の皆さんの
笑顔が目に見えます。

今回の元号は、
令和3年度に区が行なった
すくすくかめっ子支え手
アンケートのまとめを
特集しました。

制限が多い中、色々な思いで
かめっ子事業を担ってくださって
いることが改めて
皆さんの声から、
ひしひしと伝わってきました。

こんな状況だからこそ、
まちぐるみで考える
この事業の意義と必要性を
感じることができました。

コットンハーバー×きらきらプレイパーク

コロナ禍でも開催を続ける…工夫のひとつとして、
外での開催が増えたことがあげられます。

かめっ子自体を外で開催している地区もありますが、
今回は、プレイパークとの共催です。

同じ公園を使って開催しているプレイパークの一角を
担って、開催しました。

「日曜開催」という新しい試みもあり、大きくなった
子どもたちにも会って、賑わいました。

【参加者の感想より】

- *子どもとのコミュニケーション
手段が分かって良かった。
- *子どもがリラックスしていた。
- *これからも、マッサージを
毎日やってあげたい。

かめっ子×プレイパーク



暑い日でも木陰で一休み。
小学生が足でぶんぶんごま
を披露してくれましたよ!



六角橋商店街×六角橋地域ケアプラザ

こじんまりしたスペース、参加した親子が、自然と一緒に空間
を共有することができる…これが、「ろ・か・はまっこ」の魅力
です♪でも、コロナ禍の今、人数制限を設けています。

「以前みたいに、たくさんの親子に利用してほしいな〜♪
会いたいな〜♪」と、支え手(保育ボランティアこぶし)で
話し合い、近くの地域ケアプラザと助産師さんの力を借りて、
以前行っていた「ベビーマッサージタイム」を開催しました。

広〜い多目的ホールに、0歳児親子が集い、
助産師さんのお話を聞きながら、
のんびり、ゆったりした時間を過ごしました。



かめっ子×ケアプラザ

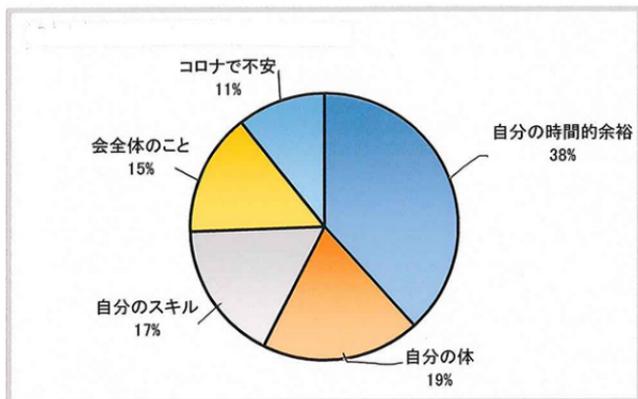


【お知らせ】神北地区の会場が、「齋北会館」
(齋藤分町12-1)に移転しました。

<更に…「楽しい」「やりがい」の自由記載から抜粋しました>

- 地域のお子さんや支え手同士の仲間の繋がりが楽しいと思う。
- 子どもは可愛い。見ていだけで幸せ♡
- かつての利用者が、町の診察室の受付や学校のPTA、町内会その他で活躍している場面に会う。地域を支える人材として活躍している姿や、当時の感想を聞かせていただいたりした時、中学校親子ふれあい授業等で、大きくなった子どもたちに会おう時、やりがいをを感じる。
- かめっ子のことを知る人が増えてきていること。
- 地域活動として、自治会活動として、継続していける場所があることは大事だと思います。
- 地域で顔を覚えてくれる人が増えた。
- 感謝の言葉はやりがいを感ずる。
- 「場」の必要性を感じ、同時にやりがいを感ずります。

一方で、☹️負担に感じることも…(47人)



※支え手は、地域のボランティア。とは言え、休む時や急用、仕事で都合が付かなくなり、交替してもらった時に、気を遣う人が多いようです。

※安全対策や除菌・衛生、とコロナ禍ならではの気苦労もあります。

※月に数回しか、親子に会わないので、「名前が覚えられない〜」という声もありました。

☹️困りごと…(38人)



※コロナ禍で、活動が制限されていること。

※かめっ子を継続するために、次世代の支え手を見つけたい！支え手の高齢化は、コロナで影響を受けました。

※でも、支え手を長く続けたい、という声も聞かれました。

※就労家庭が多くなり、利用者の参加期間が短くなっていることを、残念に思っている人も多かったです。

<エピソード>

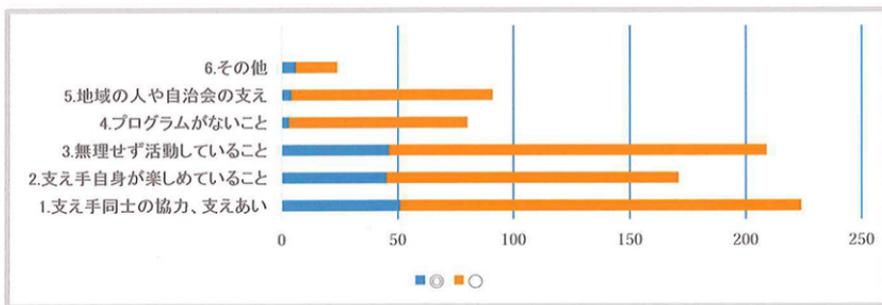
- 家にひきこもりがちだった中学生が、かめっ子の手伝いをした翌日から登校するようになった。自分が可愛がられていたことを思い出したそうです。

<こんな記述もありました…>

- コロナ禍での活動の弊害。以前のような形態が取れず、やり方を模索中。
- 会場が広くないので、特にこの時期、密になりがちで、かなり限られた人数しか参加してもらえないのが残念です。
- コロナ禍での活動の仕方。かめっ子交流会で、他地区の情報がほしい。
- 赤ちゃん訪問などから、「遊びに行けるところがない!」との話を聞き、かめっ子の需要は高いと感じ、開催を決断したことに、誤りはないと信じています。

- イベントのマンネリ化で、アイデアが見つからない。ただ場所を提供するだけでも良いかな?とも思います。
- 親の介護でなかなか参加できないのですが、担い手の方が声をかけてくださり、繋がりを見失わずにいられることに、感謝の思いです。
- シニア世代の方なども、ぜひ一緒に担い手になってほしいが、なかなか見つからず…
- 社会的な必要性は感じます。でも、この環境下でリスクを負ってまではやれません。
- 負担が1人に集中しない工夫ができれば良いのだが…とも思っている。

問 あなたが活動を続けてこられた原動力はなんでしょうか?



<「続けられる原動力」の自由記載から抜粋しました>

- 親子がそれぞれ安心して過ごせる場所の提供、きっかけづくりの場、親子の笑顔が見られる。
- こういう場が、子ども大人にも、必要な場だと思うから。
- 野外という場の魅力、多様性、可能性。
- 子ども、子育てに対する、地域の皆さんの熱意を感じる。学びの機会があること。
- 立ち上げる時は、知名度もなく、地域の方や自治会の支えをなかなか得られませんでした。今は民生委員さんたちを中心に開催できて、嬉しい限りです。
- 中心となってまとめてくださる方が居られる。

- 子どもが好きなこと、お母さんたちのお役に立っているように思えること。昔、自分の子育て時代も地域の人に励まし、助けていただいた経験がある。
- 赤ちゃんたちの可愛さ、お母さん方からの良いフィードバック。
- 支え手が若くなり、子育ての中(小・中学のお子さん持ちで)参加して来られる方々とも、お話しがやすくなったよううれしい。
- 年間の当番表を作成していただき、無理のない回数なので、お手伝いに参加できていると思います。
- 家族の理解。
- 町内会や自治会が見守ってくれている。

【編集後記】
アンケートつながらのお話。
毎年行なっているかなーちえ利用者のアンケート調査。
「区内で、参加や利用したことがある所はどこですか?」
の設問に:
一位 赤ちゃん学級
二位 かめっ子
三位 プレイパーク
という嬉しい結果が寄せられています。
就労世帯数が
増える中、
育休中の短い期間に
地域や町の人に
ふれる機会が、
子どもに、大人に、
地域の中の心地良い
支えあい・見守りあい
に包まれて
育ちあう実感を
育んでくれます。
時代が移り変わっても、その時々にかめっ子の意義が
光ります。